

# 第93期 報告書

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日



# DIJET®



**ダイジェット工業株式会社**

証券コード：6138

## ● 株主の皆様へ



代表取締役社長 生悦住 歩

株主の皆様には、平素は格別のご支援を賜り、ありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、ここに、当社第93期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の事業の概況をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

2019年6月

### 事業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害の影響を受けつつも企業収益は底堅く、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、年度後半は中国経済の減速等を背景に輸出や生産に停滞感がみられ、景気の減速懸念が高まっており留意が必要な状況です。

こうした中、当社グループにおきましては、シカゴで開催された「IMTS」、東京ビッグサイトで開催された「JIMTOF」等の主要な展示会への出展に合わせ、高能率肩削りカッタのショルダーエクストリーム [EXSAP] 形や刃先交換式ボールエンドミルのスウィングボールネオ [SWBX] 形などの新製品を発表し、お客様へより生産性の高い工具を提案できるよう努め、販売拡大を図りました。また、高機能・高精度次世代工具用合金の安定供給の実現に向け新工場「三重合金第二工場」を竣工させ、最先端の設備を導入するとともに、高品質合金の増産体制を整えました。

連結売上高は、前年同期比1.1%増の9,998百万円となりました。このうち国内販売は前年同期比3.7%増の5,710百万円となり、輸出は同2.2%減の4,288百万円となりました。輸出の地域別では、北米向けが前年同期比9.0%減の875百万円、欧州向けが同6.6%増の1,178百万円、アジア向けが同3.4%減の2,158百万円、その他地域向けが同5.5%減の76百万円となり、この結果、連結売上高に占める輸出の割合は、前年同期に比べ1.4ポイント低下し42.9%となりました。

製品別では、焼肌チップが前年同期比0.6%増の1,199百万円、切削工具が同1.4%増の7,294百万円、耐摩耗工具が同0.1%増の1,466百万円となりました。

収益面では、売上原価が増加したこと等により、連結営業利益は前年同期比11.5%減の452百万円となり、経常利益は同5.8%減の538百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同1.5%減の407百万円となりました。

なお、当期の期末配当につきましては、1株につき、普通配当30円に創業80周年の記念配当5円を加えた35円とさせていただきます。

### 今後の見通し

わが国産業界におきましては、国内では雇用・所得環境の改善が続くなか、引き続き緩やかな景気回復が継続することが期待されるものの、海外では、米中貿易摩擦や英国のEU離脱等が世界経済に及ぼす影響についての見通しが難しいものとなっており、景気の動向については今まで以上に慎重に注視する必要があります。

当社グループといたしましては、全社を挙げて、営業・技術・製造が一体となり、得意商品の受注生産体制の確立に取り組むとともに、国内においては、得意商品の拡販につとめ、市場ニーズを捉えたサービス体制の見直し、全社バックアップ体制の推進等により得意商品を創造・育成できる国内販売体制への転換を目指し、海外においては、拠点の整備・確立により本社との連携強化を図り、海外人材の育成も含めた持続可能な世界販売体制を構築し、海外事業の一層の進展を図ってまいります。

また、資源相場や為替等の変動による原材料価格や原価の上昇リスクに対しては、徹底した原価低減を行うとともに、製造工程の自動化・無人化・省人化によるアワーレートの低減に取り組み、生産性改革を推進して収益性の向上につとめてまいります。

新製品開発につきましては、「高速・高能率・高精度」をキーワードとして、顧客・営業ニーズから世界市場を見据え、販売戦略をベースに最速製品化を実現できる新製品開発体制を再構築するとともに、市場およびユーザーニーズに応じた提案型商品、革新的なオリジナル商品およびコア商品の開発を推進し、新材種や新技術を用いた高付加価値製品の開発にも注力してまいります。

人材育成につきましては、人的資源の活用基盤を整備するため、人材育成を促す新人事評価制度の導入を目指し、人材の成長およびモチベーションの向上を図るとともに、働き方改革および健康経営を推進し、生産性の向上と労働環境の整備につとめてまいります。

さらに、企業の社会的責任を自覚し、コーポレートガバナンスの更なる充実を図り、コンプライアンス体制の整備および運用につとめるとともに、大規模自然災害への対策を推進し、環境保全活動および社会貢献にも引き続き取り組んでまいります。

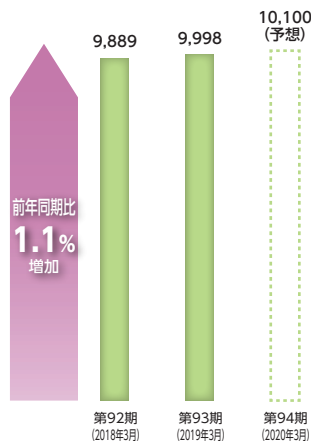
これにより、当社グループの第94期連結業績予想は、売上高は前連結会計年度比1.0%増の10,100百万円、営業利益は同10.4%増の500百万円、経常利益は同7.1%減の500百万円、当期純利益は同14.1%減の350百万円を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# ● 連結決算ハイライト

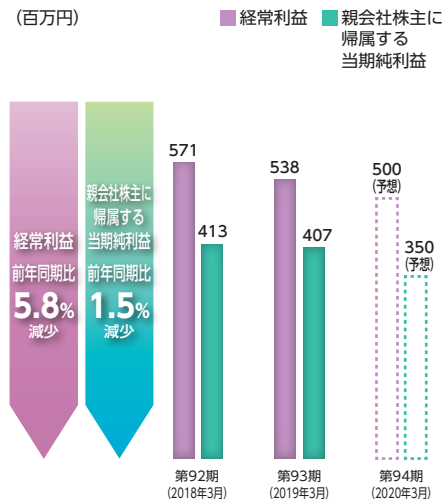
## ▶ 売上高

(百万円)



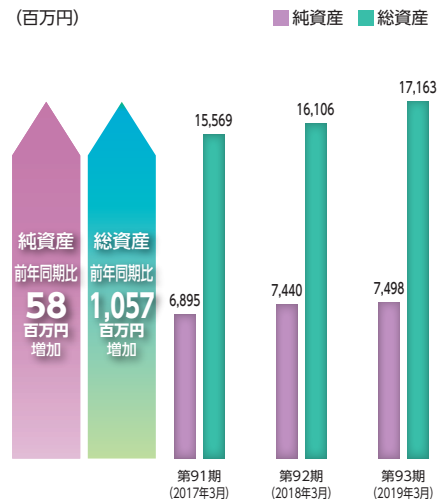
## ▶ 経常利益/親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



## ▶ 純資産/総資産

(百万円)



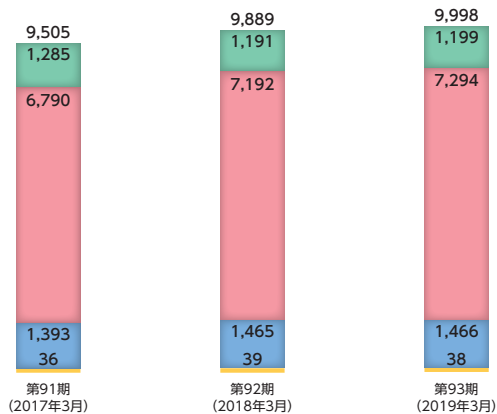
(注) 「「税効果会計に係る会計基準」の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当連結会計年度から適用しており、前連結会計年度の金額につきましては、当該基準を遡って適用した場合の金額となっております。

## ■ 売上高の推移

### ▶ (1) 製品別売上高

(百万円)

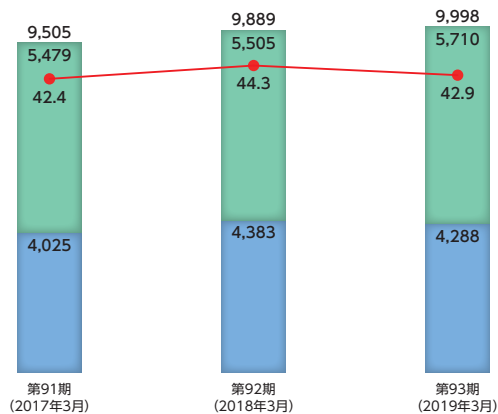
■ 焼肌チップ ■ 切削工具 ■ 耐摩耗工具 ■ その他



### ▶ (2) 海外売上高

(百万円)

■ 国内 ■ 海外 ● 海外比率 (%)



# ● 連結財務諸表（要旨）

## ■ 連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 2018年3月31日	当連結会計年度 2019年3月31日
<b>1 資産の部</b>		
流動資産	8,584,578	8,484,386
固定資産	7,521,593	8,679,510
有形固定資産	5,138,410	6,526,802
無形固定資産	51,683	78,724
投資その他の資産	2,331,498	2,073,983
資産合計	16,106,172	17,163,896
<b>2 負債の部</b>		
流動負債	4,083,715	4,714,748
固定負債	4,582,380	4,950,836
負債合計	8,666,095	9,665,584
<b>3 純資産の部</b>		
株主資本	6,763,927	7,081,520
資本金	3,099,194	3,099,194
資本剰余金	1,703,329	1,703,329
利益剰余金	2,006,523	2,324,579
自己株式	△45,119	△45,582
その他の包括利益累計額	676,148	416,791
純資産合計	7,440,076	7,498,312
負債純資産合計	16,106,172	17,163,896

## ■ 連結損益計算書

（単位：千円）

	前連結会計年度 自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日	当連結会計年度 自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日
<b>4 売上高</b>	9,889,090	9,998,993
売上原価	6,683,811	6,835,733
売上総利益	3,205,278	3,163,259
販売費及び一般管理費	2,693,887	2,710,484
<b>5 営業利益</b>	511,390	452,775
営業外収益	122,450	169,344
営業外費用	62,457	83,750
<b>5 経常利益</b>	571,384	538,368
特別利益	681	2,337
特別損失	4,828	48,736
税金等調整前当期純利益	567,237	491,969
法人税、住民税及び事業税	186,324	87,393
法人税等還付税額	△295	—
法人税等調整額	△32,097	△2,662
当期純利益	413,306	407,238
<b>5 親会社株主に帰属する当期純利益</b>	413,306	407,238

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前連結会計年度 自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日	当連結会計年度 自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,740,506	1,026,224
投資活動によるキャッシュ・フロー	△327,547	△1,219,254
財務活動によるキャッシュ・フロー	△714,335	△142,924
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,780	△4,016
現金及び現金同等物の増減額	703,404	△339,970
現金及び現金同等物の期首残高	1,323,040	2,026,444
現金及び現金同等物の当期末残高	2,026,444	1,686,474

（注）「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を当連結会計年度および当事業年度から適用しており、前連結会計年度および前事業年度の金額につきましては、当該基準を遡って適用した場合の金額となっております。

## 【連結財務諸表（要旨）】ポイント

### ■ 連結貸借対照表

#### POINT① 資産の部⇒1,057百万円増加

【流動資産 100百万円減少】

たな卸資産281百万円増加。現金及び預金339百万円、受取手形及び売掛金288百万円それぞれ減少。

【固定資産 1,157百万円増加】

減価償却費の計上により826百万円減少。設備投資の実施1,726百万円、リース資産の取得597百万円それぞれ増加。投資有価証券の評価額372百万円減少。

#### POINT② 負債の部⇒999百万円増加

【流動負債 631百万円増加】

支払手形及び買掛金76百万円、電子記録債務131百万円、その他のうち設備関係支払手形179百万円、設備関係電子記録債務345百万円それぞれ増加。

【固定負債 368百万円増加】

リース債務547百万円増加。長期借入金100百万円減少。

#### POINT③ 純資産の部⇒58百万円増加

【株主資本 317百万円増加】

配当の実施89百万円減少。当期純利益407百万円増加。

【その他の包括利益累計額 259百万円減少】

株式の時価評価等による減少。

### ■ 連結損益計算書

#### POINT④ 売上高⇒前年同期比1.1%増加

国内は3.7%の増加、海外は、欧州向けが堅調に推移したものの、期後半から中国経済の減速等の影響から2.2%減少。

#### POINT⑤ 営業利益⇒前年同期比11.5%減少

経常利益⇒同5.8%減少

親会社株主に帰属する当期純利益⇒同1.5%減少

売上高は増加したものの、売上原価が増加したこと等により収益性が低下。

## ● 個別財務諸表（要旨）

### ■ 貸借対照表

(単位：千円)

	前 期 2018年3月31日	当 期 2019年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	8,096,153	7,878,835
固定資産	7,659,042	8,798,214
有形固定資産	5,136,873	6,523,354
無形固定資産	51,683	78,724
投資その他の資産	2,470,485	2,196,136
資産合計	15,755,196	16,677,050
<b>負債の部</b>		
流動負債	4,036,159	4,649,911
固定負債	4,569,365	4,929,133
負債合計	8,605,524	9,579,045
<b>純資産の部</b>		
株主資本	6,493,683	6,708,054
資本金	3,099,194	3,099,194
資本剰余金	1,703,329	1,703,329
利益剰余金	1,736,279	1,951,112
自己株式	△45,119	△45,582
評価・換算差額等	655,987	389,950
その他有価証券評価差額金	655,987	389,950
純資産合計	7,149,671	7,098,004
負債及び純資産合計	15,755,196	16,677,050

### ■ 損益計算書

(単位：千円)

	前 期 自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日	当 期 自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日
売上高	9,532,210	9,443,355
売上原価	6,825,925	6,825,757
売上総利益	2,706,285	2,617,597
販売費及び一般管理費	2,260,402	2,290,162
営業利益	445,882	327,434
営業外収益	124,604	155,531
営業外費用	62,457	83,116
経常利益	508,029	399,849
特別利益	681	2,337
特別損失	4,828	48,736
税引前当期純利益	503,883	353,450
法人税、住民税及び事業税	153,000	46,000
法人税等還付税額	△295	—
法人税等調整額	△22,322	3,434
当期純利益	373,500	304,016

## ● トピックス

### 見本市

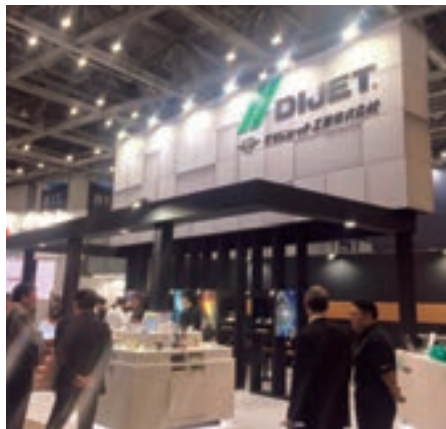
当事業年度におきましても、国内外の工作機械・機械工具関係の見本市に積極的に出展いたしました。

国内最大の工作機械見本市「JIMTOF2018」では、来場者数が過去最高の15万人を超えるという大盛況のなか、金型加工用工具、難削材加工用工具の新製品を展示いたしました。

また金型加工技術展「インターモールド2018」、「名古屋機械要素技術展」の他、海外では、世界4大工作機械見本市の「IMTS」（米国）、中国では「DMC2018」（上海）、「CIMES2018」（北京）、「DMP広東」（深圳）などの金型・工作機械関連見本市に出展し、積極的に当社製品をPRいたしました。



インターモールド2018



JIMTOF2018



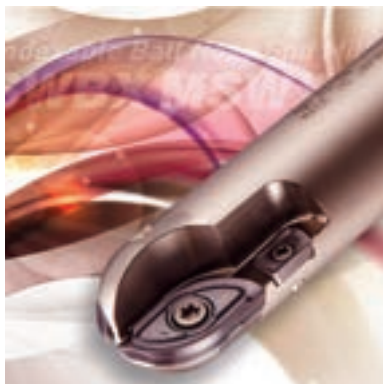
IMTS

## 新製品

当事業年度におきましては、主力の金型加工用工具をはじめ注力しております高硬度材加工用工具など様々な新製品を発売いたしました。主な新製品は次の通りです。

### ■ 『ショルダーエクストリーム』

荒加工から中仕上げ加工の高精度、高能率加工が可能な刃先交換式肩削りカッタ。刃先交換インサートは両面4コーナー使用可能で経済的。インサート材種は「JC8118」「JC8050」の2種類を揃え、一般鋼から炭素鋼、鋳鉄、ステンレス鋼などの幅広い被削材に対応。



スウィングボールネオ



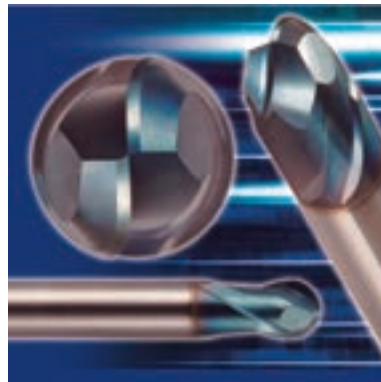
ショルダーエクストリーム

### ■ 『スウィングボールネオ』

金型向け部品やタービンブレード等部品の荒加工から中仕上げ加工が可能な刃先交換式ボールエンドミル。新材種「JC5240」を採用し、鋼加工における対欠損性、耐摩耗性を向上。刃先強化型インサートのラインナップによりHRC60以上の高硬度材の高能率加工に対応可能。

### ■ 『ハード1ボール』

高硬度材加工において高能率加工を実現した、2枚刃ソリッドボールエンドミル。新材種「DH110」を採用し、高硬度材の荒加工から仕上げ加工まで対応可能。刃長1Dのスーパーショートタイプ仕様で焼きばめホルダやハイドロツウリングとの組合せにより高精度、高寿命な加工を実現。



ハード1ボール

## ● トピックス

### 環境・社会活動

当社は、地球環境の保全、汚染の予防を認識し、循環型社会の視点（3R:Reduce、Reuse、Recycle）に立った事業活動を展開し、環境保全に取り組んでおります。

当事業年度におきましては、ISO14001の取組みとして、「消費エネルギーの削減」、「化学物質リスクの低減」、「環境にやさしいものづくり」、「日常業務を通しての環境改善」、「廃棄物の管理及び削減」、「資源の有効利用」などをテーマとした中期3カ年計画（2016年度～2018年度）の最終年度であり、各部門・事業所ごとに目標達成に向けて年度目標を設定して取り組みました。

新製品開発においても、日本機械工具工業会が選定する「環境調和製品認定制度」に積極的に取り組み、通算で71点の認定を受けております。

また、社員による地域美化運動にも取り組み、地域社会とのコミュニケーションを積極的に図っております。

当社では、今後も引き続き、より一層環境保全への継続的改善に積極的に取り組み、社会貢献に努めてまいります。



環境製品認定ラベル



地域美化運動（本社）



## ● 株式情報 (2019年3月31日現在)

### ■ 株式の状況

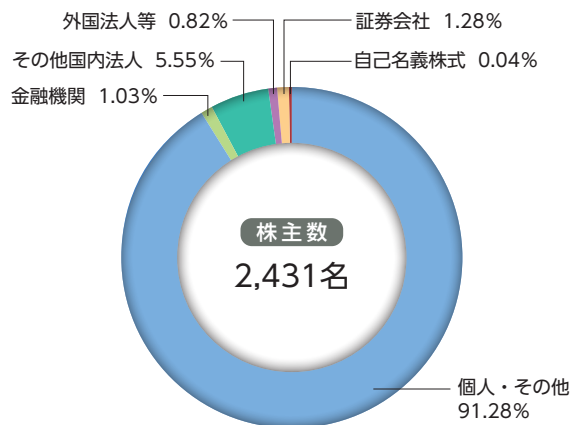
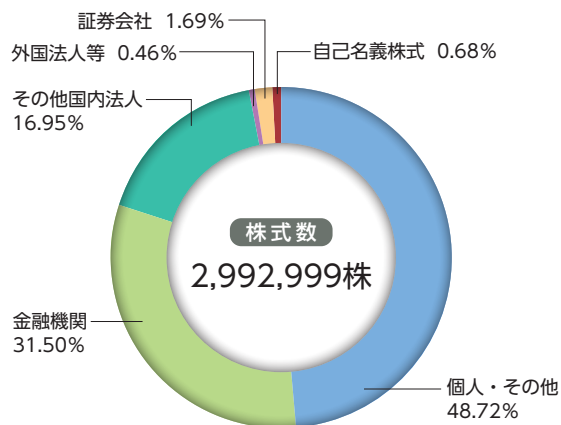
発行可能株式総数	8,000,000 株
発行済株式の総数	2,992,999 株
株主数	2,431 名

### ■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ダイジェット取引先持株会	173	5.84
ダイジェット持株会	165	5.55
株式会社みずほ銀行	147	4.97
生悦住望	133	4.48
株式会社三菱UFJ銀行	124	4.19
シルバーロイ株式会社	90	3.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	89	3.00
明治安田生命保険相互会社	85	2.88
共栄火災海上保険株式会社	82	2.78
株式会社不二越	70	2.35

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は、自己株式(20,466株)を控除して算出しております。

### ■ 株式の分布状況



## ● 会社情報 (2019年6月25日現在)

### ■ 会社の概要

社名	ダイジェット工業株式会社 (DIJET INDUSTRIAL CO., LTD.)
設立	1950年12月
資本金	3,099,194,104円
従業員数	492名 (うちパート等 99名)
事業内容	超硬合金、超硬工具の製造販売



### ■ 役員の状況

代表取締役会長	生悦住	のぞむ 望
代表取締役社長	生悦住	あゆむ 歩
常務取締役	経営企画部長 古林	ゆう 雄
取締役	技術部長 なかた	とし 敏
取締役	総務部長兼経理部長 あん藤	のぶ 信
取締役	常勤監査等委員 まつもと	たい 泰
取締役(社外)	監査等委員 こしま	やす 康
取締役(社外)	監査等委員 ひら井	ひで 秀
		みつる 満

### ホームページのご案内



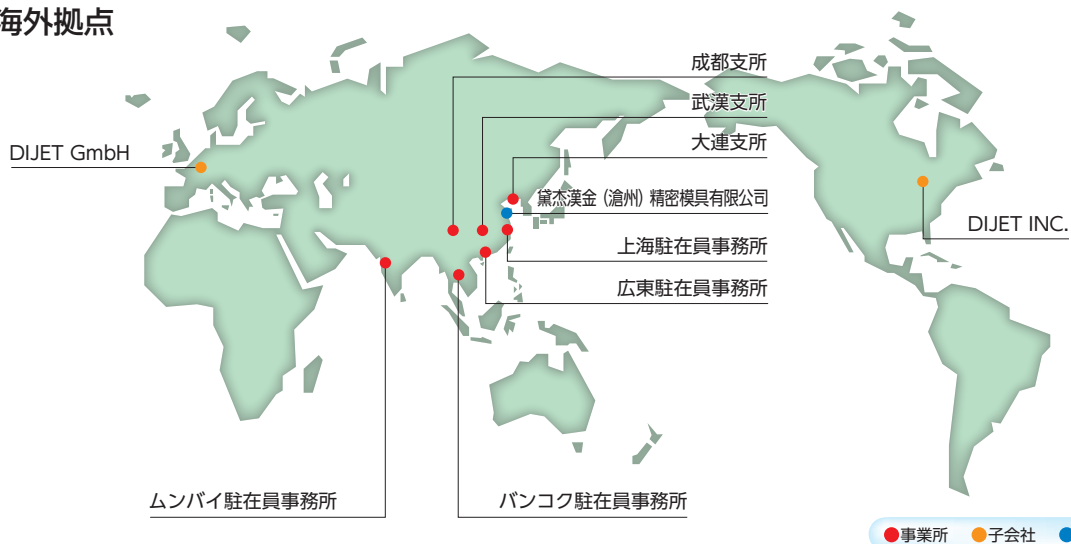
<https://www.dijet.co.jp/>

# ● 事業所および主な子会社 (2019年6月25日現在)

## ■ 国内拠点



## ■ 海外拠点



● 事業所 ● 子会社 ● 関連会社

## ■ 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
**定時株主総会** 毎年6月中  
**基準日** 定時株主総会の議決権 3月31日  
期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日

**公告方法** 電子公告 <https://www.dijet.co.jp/>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

**株主名簿管理人  
および特別口座  
の口座管理機関** 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社

**同事務取扱場所** 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

**郵便物送付先  
および連絡先** 〒168-8507  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話番号 0120-288-324 (フリーダイヤル)

**〔株式に関する  
各種お手续〕**

届出住所・姓名などの変更、配当金の振込先の指定または変更、単元未満株式の買取・買増請求などにつきましては、口座開設されている証券会社（証券会社に口座開設されていない株主様は、上記の特別口座の口座管理機関（みずほ信託銀行株式会社）へお届出ください。

なお、未受領配当金（ゆうちょ銀行の払渡期間経過後）のお支払いにつきましては、上記の株主名簿管理人（みずほ信託銀行株式会社）までお申出ください。

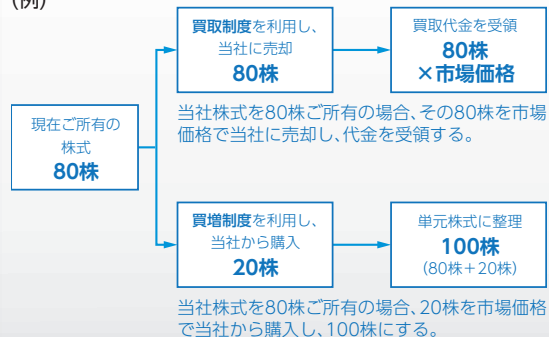
### 単元未満株式の買取・買増請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、100株未満の単元未満株式は市場で売買することができません。

単元未満株式をご所有の株主様は当社に対して単元未満株式を売却する（買取請求）、または単元株式となるよう不足する株数の株式を当社より購入する（買増請求）ことができます。

お申出先につきましては、左記の株主メモをご参照ください。

(例)



**DIJET INDUSTRIAL CO., LTD.**

〒547-0002

大阪市平野区加美東2丁目1番18号

TEL.06 (6791) 6781 (代表)

**UD  
FONT**



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

この報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。